

# 加佐

学校教育目標

『 仲間とともに 夢と希望をはぐくみ 学びあい 認めあい 鍛えあう生徒の育成 』

学校だより 7月号

平成30年7月1日

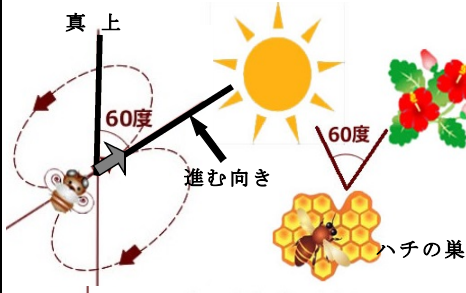
舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

E-mail kasa-jhs@kyoto-be.ne.jp



## ミツバチだけに8の字ダンス!



“パンにハチミツ”

実に美味しくて好きな

のですが、ハチミツは何故か最後まで食べ切れず、瓶底で白く固まってしまうケースが多いです。冬場の5~14℃になると固まってしまうのですが、ミツバチは、一生で4~6g(ティースプーン1杯程)しか蜜を集められません。

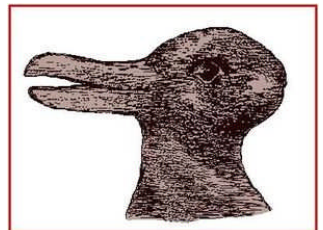
それを知ると湯煎をし、溶かして最後までしっかり食べきらなければと思うのですが・・・

ところでミツバチは、蜜を沢山集められる花畑を見つけると仲間にダンスでその場所を知らせます。その方法は、巣の中でおしりを震わせながら8の字を描くダンスをするのです。(上の図の左)花畑のある方向は、真上(重力の反対向き)とミツバチが8の字の真ん中を進む向きとの角度が、巣を中心に太陽と花畑の間の角度と同じなのです。(図参照;太陽に向かって60度の角度で飛べばよい)曇りの時のために、太陽から出る紫外線をキャッチする能力も備わっています。次に巣から花畑までの距離ですが、8の字を1周回るダンスの速さで示し、速い程花畑までの距離は近いのです。この研究等によって、動物学者のフリッシュは1973年にノーベル賞を受賞しています。子孫を残すために進化の過程で、遺伝子に組み込まれてきた能力は、凄い一言です。昆虫と言えども、その能力の高さに、ミツバチを見る目も変わります。ただ、人は更に進化しているので、初めて行く場所へは、カーナビや人に尋ねて必要な情報を取捨選択し、目的地にたどり着きます。しかし、自分の生き方については、他人から間違いなく幸せになる花畑を教えてもらっても、自分自身が納得しないと、そこには行きません。ミツバチのように何も考えずに飛んでいけば良いのに、人とは難しくてややこしい生物です。だから素晴らしいのかもしれませんが。ただミツバチの話をする時、どうしても雄バチの悲哀漂う一生が、頭に浮かびます。機会があればいいので、お調べください。

## 見方を変えれば“×”も“+”に変わります!

バツの記号“×”は、否定的な意味合いで使われますが、45度自分を回転させて見ると肯定的な“+”に変わります。この時、“×”を動かすのではなく、自ら動く姿勢がポイントです。大体、プラス“+”

を書く時も先ずは、マイナスの“-”から書き始めます。物事はいきなり良いことからスタートしません。要は、困難な状況にあっても一呼吸置いて、見方を変えられる余裕を持ちたいものです。物事に対しては、見方(みかた)を変え『味方』にしましょう!



校長 山口 茂  
教職員一同